

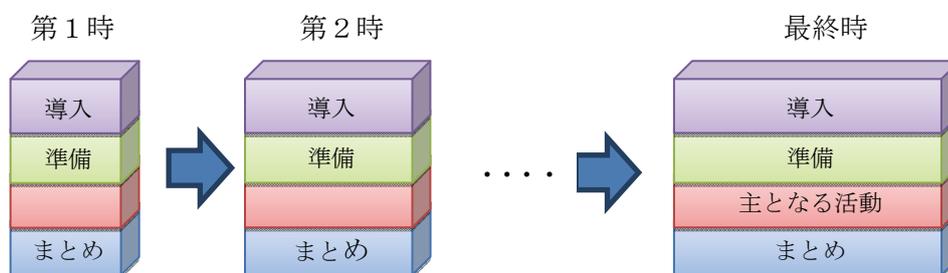
2 見通しをもって取り組む単元の展開

児童・生徒が見通しをもって毎時間の活動に取り組むことができるために、児童・生徒の実態や単元のねらいに応じ単元の展開を工夫することも考えられます。

「一連の活動を組織的に」展開するための取り組み方として、授業実践からは主に下の2つの授業展開が見られました。

①繰り返し型

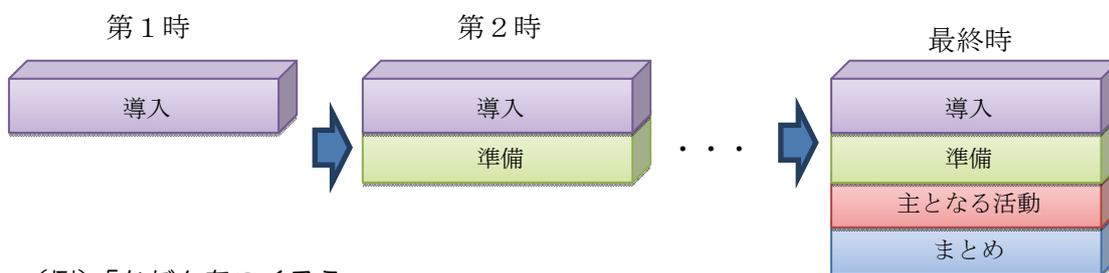
「一連の活動」に、毎時間繰り返し取り組む授業展開で、主に小学部の低学年などで、長期間の活動に見通しがもちにくい場合に効果的です。活動を繰り返していくうちに自分がすることが分かり、「できること」が増え、自分なりの見通しや期待感がもてるようになります。



(例)「やぎさんのかくれんぼ」(平成27年3月「各教科等を合わせた指導の充実」に掲載)
「三匹のこぶたのげきをしよう」(33ページ 実践例1)

②積み重ね型

目標の達成に向けて、毎時間の活動を積み重ねていく授業展開で、児童・生徒が活動へ
の見通しをもち、計画・準備の段階から自分たちで活動をつくり上げていくことを大事に
した展開です。前時までの活動の振り返りと、本時の活動、活動の到達点を視覚的に確認
できるような工夫が必要です。



(例)「かだんをつくろう」
(平成27年3月「各教科等を合わせた指導の充実」に掲載)
「みんなが使うベンチをつくろう」(33ページ 実践例2)



児童・生徒の実態や主となる活動の種類によって、上の2つの型を
組み合わせた展開なども工夫することができます。単元を通して、
どのような力を育てたいのかを考え、効果的な展開を工夫することが大切です。

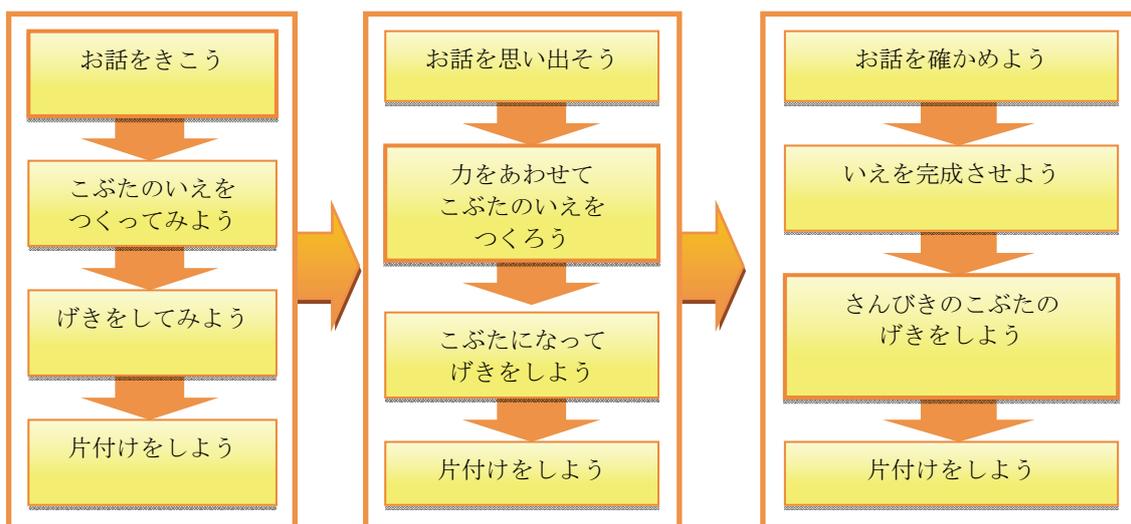
実践例3 「三匹のこぶた」のげきをしよう（小学部2年生）

活動の流れを理解しながらげき遊びを楽しみ、精一杯活動することを期待して取り組んだ単元です。毎時間、ストーリーの確認、道具づくり、劇遊びの流れで活動を展開しながら、それぞれの内容を少しずつステップアップしていきました。

準備・活動も含めた繰り返しの活動で、活動の見通しや始めと終わりの区別が付き、自分から行動できる場面が増えました。



単元の展開（全16時間）



実践例3 みんなが使うベンチをつくろう（中学部3年生）

低学年の児童等が靴を脱ぎ履きするために使うベンチをつくり、玄関に設置することを到達点とした単元です。校内で困っていることや手伝いの必要なことを見つけ、人の役に立つ経験を通して働く喜びや活動への意欲を高めることを期待して活動を組み立てました。「ベンチの完成と設置」に向けて活動を積み重ね、本時の活動成果が「ベンチの完成度」として視覚的に確かめられるようにしました。



単元の展開（全17時間）

